

高等学校学習指導要領解説

公民 統計関係部分抜粋

第2章 各科目

第1節 現代社会

2 内容とその取扱い

(3) 共に生きる社会を目指して

持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。

課題を探究させるに当たっては、特定の個人・社会・世代にかかわる視点だけではなく、現代社会に生きる人間として課題を探究するよう指導することが求められる。その際、現代社会においては、自己の生き方を他者や社会とのかかわりにおいて考える、つまり「共に生きる」ということや、「幸福、正義、公正」などに基づいて考察させることが大切である。

なお、課題を探究する学習については、一定の方法があるわけではないが、一般に、①課題の設定、②資料の収集と活用、③課題の探究、④まとめといった手順が考えられる。それぞれについての配慮事項としては、次のことが挙げられる。

- ① 課題の設定については、各地域や学校、生徒の実態に応じて進め、生徒が持続可能な社会の形成にどのように参画するかについて考えることができる課題を設けることが必要である。
- ② 資料の収集と活用については、課題の探究に必要な資料を膨大な資料の中から適切に選び出し、有効に活用して、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方の育成と学び方や調べ方の習得を図るよう配慮する。
- ③ 課題の探究については、資料を読み取ったり分析したりしたことなどをもとに議論をさせたり、中間発表をさせたりすることが考えられる。また倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など様々な観点から探究させることが大切である。
- ④ まとめについては、レポートにまとめて提出させたり、プレゼンテーションをさせたりすることなど、生徒の実態に即した多様な方法が考えられる。その際、探究した過程や成果を分かりやすくまとめて表現することができるよう指導することが大切である。例えば、レポートの作成については、調査・研究の目的、方法、考察過程、結論、参考文献、資料など必要な事柄を記述させるなど、自ら取り組んだ課題について、一つのまとまったものに仕上げ、生徒に成就感をもたせることが大切である。

また、このような学習活動を通して、生徒に学び方を身に付けさせることも大切である。なお、学び方には一定の方法があるわけではない、例えば、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理したり、社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりすることも一つの方法であり、調べたことを分析し、それを論述したり、ディベートの形式を用いて議論を深め、自らの考えや集

団の考えを発展させる経験をさせたりする活動が取り入れられることなども期待される。

第2節 倫理

1 科目の性格と目標

2 内容とその取扱い

(1) 現代に生きる自己の課題

自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。

「自らの体験や悩みを振り返る」については、生徒が抱いている人生への問いや豊かな体験、悩みなどをもとにして指導を深める。青年期には、人生を左右するような豊かな体験をしたり、心に残る感動的な体験をしたりすることがある。将来への夢や不安、主体性や個性にかかわる悩み、自己の性格や適性についての悩み、家族や友人関係における悩み、所属する集団における帰属意識や疎外感、成就感や挫折感をもった体験、優越感や劣等感などをもった体験、愛と性にかかわる悩みなど、いろいろな悩みを生徒はもっている。これらが青年期に共通する悩みであることを理解するとともに、適切な手掛かりを活用して、それらの課題の解決を図り、社会の中で主体的に生きていくための人生観、世界観ないし価値観の基礎を培うことができるようにし、自己形成を促すように指導する。その際、各種の統計や意識調査の結果を利用したり、対話や討議、作文や調査などを通して指導したりすることも考えられる。また、文学作品、美術作品、映像作品などを取り上げて指導することもできる。指導に当たっては、他の教科等における性格や適応などにかかわる学習についても配慮する。

第3節 政治・経済

2 内容とその取扱い

(2) 現代の経済

現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

この大項目は、「ア現代経済の仕組みと特質」、「イ国民経済と国際経済」の二つの中項目から構成されている。ここでは、大きな変動が続いている現代の日本経済及び世界経済の動向に関心をもたせ、グローバル化が進み、ますます世界との関係が緊密化している日本経済の動向や経済生活の変化を理解させ、現代経済を貫いている基本的な原理や、現代経済の仕組みや機能を理解させるとともに、現代の日本経済及び世界経済の特質を把握させることを通して、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせることを主なねらいとしている。

ア 現代経済の仕組みと特質

経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。

「経済成長と景気変動」については、経済活動の目的が国民福祉の向上にあり、その実現のためには経済成長と景気や物価の安定が不可欠であり、政府による適切な経済政策が重要となっていることに気付かせる。なお、経済成長と景気変動を測る指標には、国民所得、鉱工業生産、失業率、物価指数などがあることを理解させ、それらの指標の特色を理解させた上で、景気変動の要因と経済の状態を、統計資料を用いて考察させるようにする。また、我が国の経済成長と景気変動の要因とそれぞれの時期における政府の対応を検討させるなどの工夫も必要である。

イ 国民経済と国際経済

貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。

国際収支については、国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解させる。その際、国際収支の著しい不均衡が経済摩擦の一因となっていることに気付かせる。